

豊かな人間性と創造性を育む学校を目指して

—「教頭力」向上のために—

神奈川県横須賀市教頭会 横須賀市立馬堀小学校 塩野谷 純 香

1 主題設定の趣旨

横須賀市は神奈川県南東部の三浦半島に位置し、人口約40万人、市立小学校46校、中学校23校の中核市である。教員の年齢構成は、経験5年未満教員数が2割を超える状況であり、経験豊富な教員は極端に減少している。特に各学校で経験10年未満の教員が増加しており、他地域同様年齢のバランスに偏りがある。更に、市内の小学校新任教頭の人数は、平成30年度13名、令和元年度11名、令和2年度8名で、3年間で46校中32校に新教頭が赴任している。

また、横須賀市教育委員会は目指す子供像を「人間性豊かな子供」とし、学校、家庭、地域が互いに協力して教育活動に取り組んでいる。

本研究では横須賀市の現状、市教育委員会の方針を受け、研究主題を「豊かな人間性と創造性を育む学校を目指して」、副題を「『教頭力』向上のために」とした。

2 研究のねらい

研究主題にある、児童の豊かな人間性と創造性を育む学校をつくるためには、教員の授業力向上が欠かせない。教職経験の少ない教員の割合が高く、中堅・ベテラン教員が減少している今、校内で教頭が果たす役割は大きい。教頭の人材育成力の向上が喫緊の課題だと言える。

そこで、横須賀市立小学校教頭会（特別支援学校2校を含め48校が所属、以下、教頭会）では、管理職経験の浅い教頭も、各校で指導力を発揮できるよう「『教頭力』の向上」をめざし、様々な実践を進めている。今回は、第1 A分科会課題「教育課程に関する課題【第12期】」の中から「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」につながる、具体的な取り組みを発表する。

3 研究の経過

(1) 前回の指導要領改訂に伴う取り組み

平成20年度に「『新学習指導要領ここがポイント！』～教頭として知っておきたいQ&A～」を、また、平成24年度には「『思考力・判断力・表現力の育成を中心とした授業づくりのために』指導・助言のポイント」を作成、活用してきた。

(2) 今回の指導要領改訂に伴う取り組み

上記2冊の冊子を参考にして、令和元年度「『新学習指導要領ここがポイント！』～授業力向上のために～」を作成、活用した。

(3) 様々な研修

学校経営支援員の先生方を講師に招き、人材育成力の向上を目指した研修を実施した。更に、部会教頭会でもよりよい指導・助言について情報交換が行われている。

4 研究の概要

(1) 前回の指導要領改訂に伴う取り組み

平成20年度版「『新学習指導要領ここがポイント！』～教頭として知っておきたいQ&A～」は平成23年度の学習指導要領改訂を見据え、各教頭が作成にあたった。

そして、平成23年度の完全実施を受け、平成24年度には「『思考力・判断力・表現力の育成を中心とした授業づくりのために』指導・助言のポイント」を作成した。この冊子では、各教科等の「授業観察カード」が作成された。これは、12～18項目で各教科等の授業について評価できるカードで、近年まで実際の指導・助言の場面で活用されていた。

(2) 今回の指導要領改訂に伴う取り組み

令和元年度には、令和2年度の新学習指導要領完全実施に備え、「『新学習指導要領ここがポイント！』～授業力向上のために～」を作成した。前述の「『思考力・判断力・表現力の育成を中心とした授業づくりのために』指



導・助言のポイント」が好評で、今回の改定後も活用できる資料を、との要望が上がった。冊子作成にあたっては、「日々の授業観察や教師への助言に生かせるもの」「全教頭が関わり、改訂の趣旨を知る」「新学習指導要領改訂の趣旨を取り込む」等のコンセプトが示された。また、内容項目は以下の通りである。

- ・各教科の改訂のポイント
- ・各教科における（育てたい）資質・能力
- ・教科を超えた資質・能力
- ・障害のある児童への配慮
- ・学校段階間の接続

また、既存の「授業観察カード」を新学習指導要領に対応する内容とした。各教科等のカード14種を作成したが、ここでは、体育科の授業観察カードを示す。

授業観察カード【体育】	
日 時:令和 年 月 日() 第 校時	
授業者名: 年 組 氏名	
①	運動に適した服装の指導がされている。
②	元気な挨拶、話を聞く姿勢等の指導がされている。
③	場、用具の安全に気を配っている。
④	学習の見通しを明示している。
⑤	指示が明確でわかりやすい。
⑥	児童の興味、関心を喚起している。
⑦	易しい課題に終始せず、試行錯誤を促している。
⑧	課題解決の場面などで、必然性のある対話が展開されている。
⑨	課題の解決に向けた思考に深まりが見られている。
⑩	一人一人の学習活動を把握し、個に応じた指導・支援をしている。
⑪	毎時間の『振り返り』を大切にしている。
備 考	

これまで教頭のみが指導・助言のツールとして活用していた授業観察カードを、以下のような手順で活用した。

① 観察授業の教科等のカードを事前に授業者に渡す。

※「この授業観察カードの項目を（いくつか）意識して、指導案を作成してください。」

② 授業者が指導案を作成する。

③ 観察授業を行う。

④ 振り返りでは、授業者が意識して取り組んだ項目について十分評価した後、課題点、改善点等について指導・助言する。

(3) 様々な研修

「人材育成力」の向上を主眼において、日ごろから市内教職員の指導にあたっている学校経営支援員を講師として招いた研修や、全48校を8つの部会に分け、4～10校で月1回を目安に開かれている部会教頭会でも、授業改善の具体的な方法について研修を深めた。

5 成果と今後の課題

(1) 成果

前回の指導要領改訂時の2冊の冊子をもとに、PDCAサイクルの考え方を生かし、効率的に内容が充実した3冊目の冊子を作成することができた。また、冊子の活用、学校経営指導員を講師に招いた研修や、部会教頭会による研修を通し、教職員への指導経験が少ない教頭の「人材育成力」の向上に貢献できた。

(2) 課題

本研究では、作成した授業観察カードの内容項目について課題が残った。働き方改革が推進される中、作成に十分な時間をとることができなかった。今後、見直し、改善を進めるためには、冊子を作成した臨時の委員会から、常設されている委員会へ内容を引継ぎ、前回の2冊のように次回の指導要領改訂まで活用される冊子に仕上げ、教頭の「人材育成力」の更なる向上を目指す。

48校で構成されている本市教頭会の組織力を生かし、各校が「豊かな人間性と創造性を育む学校」となれるよう、市教委、校長会と連携を図り、本市の教育界をリードしていきたい。

第1A

第1B

第2

第3

第4

第5A

第5B

第6

特I

特II